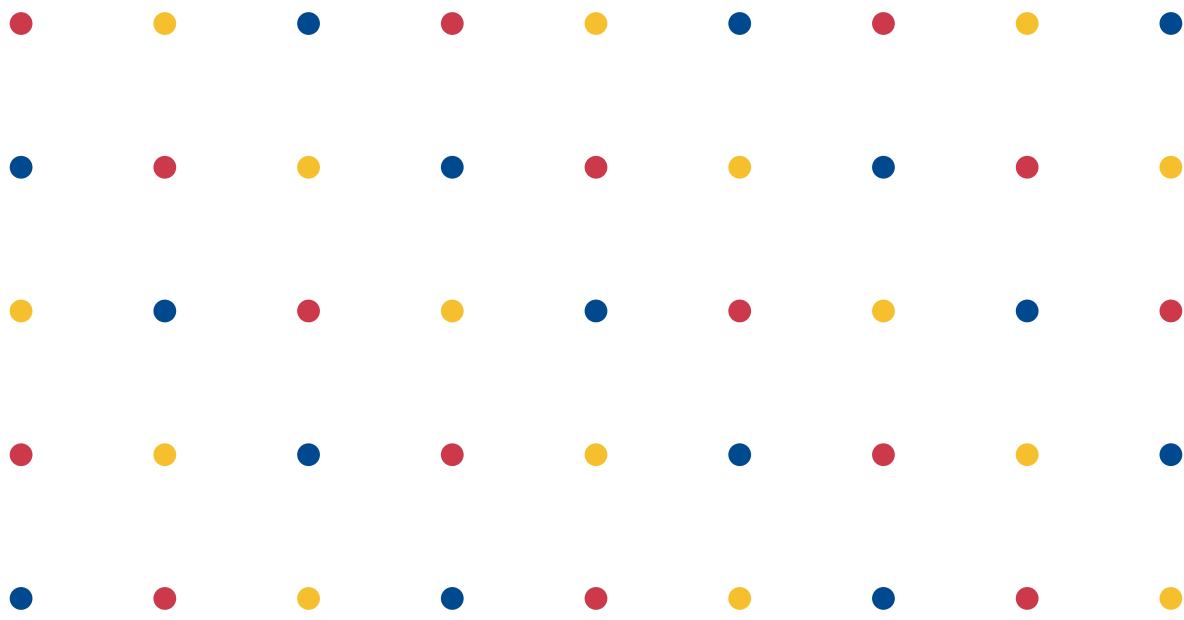


# Annual Report 2016

活動報告書 2016.4–2017.3





## ごあいさつ

エル・システムジャパンへの継続的な支援を誠にありがとうございます。

古代ギリシャの哲学者プラトンは言いました。「ある社会が成功をおさめるには欠かせないことが一つある。それは、若者達が自らの人生の中のしかるべき場所に楽しみを見つけられるようにすることだ」

オーケストラや合唱等の仲間と共に創作する音楽活動は、参加する子どもたちに喜びをあたえて、各々の生きる力(内発的動機付け)を育んでくれる。これは、エル・システムジャパンが掲げるミッションです。また、東日本大震災の社会心理的ダメージや原発事故による先行きの見えない不安感を子どもも大人も抱えていた5年前に、福島県相馬市の関係者が一番共鳴してくれたエル・システム式音楽教育理念の柱もあります。

もちろん、相馬での活動はやっと5年。大槌での活動もようやく3年を迎えるところです。当初から活動に参加している子どもも、まだ高校2年生。しかし、確かに言えることは、彼らは、既に仲間と共に音楽を作り上げるという人生における楽しみを見つけられています。

予期していなかった展開としては、エル・システムは本来子どものための教育プログラムですが、様々な形で関わってくれている大人たちにも喜びを与えられていることです。大学生、若手社会人による指導ボランティア(フェロー)も、現地での指導補助だけでなく、演奏活動を展開するようになり、メンバーも高校生から60歳代と多様な集まりとなっていました。一方、大槌ではシア向の教室が自然発生し、成人の初心者も合奏で音楽の喜びを体験できる活動が始まっています。これは、少子高齢化が進む21世紀の日本独自のエル・システム進化形かもしれません。

冒頭で引用したプラトンの母国ギリシャは、現在、戦火や圧政から欧州に逃れてくる難民たちの入口となり、大きな社会問題を抱えています。そうした中、エル・システムギリシャの同僚たちは、難民の子どもたちが、オーケストラや合唱を通して、不安の日常の中で、少しでも喜びを見出し、安心できるようにと様々な活動を展開しています。

エル・システムジャパンは、世界に広がるエル・システムのコミュニティの仲間とともに、いつか希望するすべての子どもが共創の音楽の喜びを知り、未来を切り開いていってもらえることを実現していきたいと思っています。今年度からは、3箇所目の拠点としての長野県駒ヶ根市、そして、東京都で障害の有無にかかわらず誰もが参加できるインクルーシブなホワイトハンドコーラスの活動も開始します。気の長い取り組みとなりますが、どうぞご支援いただければ幸いでございます。

エル・システムジャパン 代表理事 菊川 穩



【菊川 穗 略歴】1971年神戸生まれ。95年ロンドン大学ユニバーシティカレッジ卒業。96年同大学教育研究所政策研究修士課程終了。その後、98年よりユネスコ 南アフリカ事務所にて教育担当官。2000年よりユニセフ レソト、エリトリア事務所において、青少年、子ども保護、およびエイズ分野を担当。07年より日本ユニセフ協会にて勤務。11年3月より東日本大震災緊急支援本部チーフコーディネーターとして支援活動を指揮。12年3月に一般社団法人エル・システムジャパンを設立、代表理事に就任。

## 目次

02	ごあいさつ
05	相馬市長・大槌町長・駒ヶ根市長より
06	エル・システムジャパンの理念
08	組織概要・沿革
<b>2016年3月末における活動状況</b>	
10	相馬市
12	大槌町
13	駒ヶ根市
14	<b>2016年度のハイライト</b>
18	海外ユース・オーケストラとの交流   カボソカ音楽学院オーケストラ   フランシスコ・ミランダ・ユース・オーケストラ   エル・システム埔里
20	アーティストとの交流   マレック・シュバキエヴィッチさん   スタンリー・ドッズさん   リチャード・エレジーノさん   テディ・ババガラミさん&萩原麻未さん
24	第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬
26	大槌子どもオーケストラ ミニコンサート
28	フェローオーケストラとの初共演
30	エル・システムジャパン作曲教室
32	音楽監督からの報告
36	現場の声
40	外部評価調査報告
42	財務報告
44	メディア掲載一覧
47	ご協力いただいたアーティストの皆さま
48	ご支援いただいた皆さま

※ 学年・年齢の表記は当時のものです。



©FESJ/2017/Urara Sakurai



立谷秀清  
相馬市長

相馬子どもオーケストラ&コーラスの活動を支えていただいているエル・システムジャパン様をはじめ多くの関係者の皆様、そして温かいご支援を賜っている皆様に心から感謝を申し上げます。皆様のおかげで、相馬子どもオーケストラ&コーラスの子ども達は、楽しく、真剣に音楽に向き合っています。

市内外で子ども達の活躍する場が広がり、その際に寄せられる多くの称賛の声が子ども達の自信となり、意欲の向上へと繋がっていると感じております。また、日々の活動では先輩が後輩を指導する場面が多くあり、今日では希薄となりつつある“縦の繋がり”が見られます。その“縦の繋がり”は、子ども達にとって音楽だけにとどまらず、多くの事を学ぶ場となっていると思われます。

子ども達が健やかに、そしてたくましく成長している姿は、私ども地域の大人にとって何よりの励みであり、復興に取り組む力となっています。

今後とも多くの方々のお力添えをいただきながら、子ども達の生きる力を育んでまいります。



平野公三  
大槌町長

2011年に発生した東日本大震災で本町は甚大な被害を受けました。震災から今年で7年目となり、中心市街地は道路の整備が進み、住宅や店舗の再建も進んでいます。しかし、震災により傷ついた子どもたちの心のケアは未だ必要不可欠です。

このような中、3年前にエル・システムジャパン様と協定を交わし、音楽活動に取り組んでいる子どもたちを中心に、人的、物的支援を頂き、音楽活動を通して心のケアを行っていただいております。

昨年は、LAフィルやNHK交響楽団などのプロの演奏家に触れる機会や、著名な講師の方々が直接指導してくださることにより、子どもたちの音楽に関する興味・関心や好奇心が育ちました。また、弦楽教室では、上級生が下級生をお世話するという異年齢交流が多く見られました。これらの活動は、本町が目指す子どもたちの「豊かな育ち」と「確かな学び」の保障に繋がっていると感じます。

今後も引き続き大槌町の子どもたちのために、夢や希望をふくらませるご支援にご協力くださいますようお願いいたします。



杉本幸治  
駒ヶ根市長

駒ヶ根市は、平成29年度から、音楽プログラム「エル・システム」を活用した、「音楽を通じて生きる力をはぐくむ事業」に取り組むことといたしました。今年3月23日には、イシカワベネズエラ大使様の立会いのもと、一般社団法人エル・システムジャパン様との事業協力に関する協定書調印の運びとなり、大変うれしく感謝申し上げます。

この事業の目的は、子どもたちへの音楽教育を通じて、忍耐力や協調性、自己表現力などの社会性を身に着けることで、具体的な事業内容は、小中学校の部活動の支援や弦楽教室、合唱教室などの音楽活動を予定しています。

今後の展開として、5年後には「駒ヶ根子どもオーケストラ」の創設を目指し、また、ベネズエラの音楽家などとも連携した「子ども音楽祭」を開催し、事業の成果発表もしていきたいと考えています。

エル・システムジャパンの皆様、ベネズエラ大使様はじめ大使館の皆様、全国でこの事業をご支援いただいている皆様をはじめ、すべての関係者の皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



©FESJ/2016/Mihoko Nakagawa

東日本大震災で被災した子どもたちが音楽を紡ぐことにより自信や尊厳を回復し、自分の人生を切り開いていける「生きる力」を育むことを目標として、エル・システムジャパンは2012年に設立されました。これまで福島県相馬市と岩手県大槌町で活動を実施してきましたが、2017年3月に長野県駒ヶ根市とも協力協定を結び、芸術に直接触れたり参加したりする機会の限られている「地方のなかの地方」にいる子どもたちを対象とした活動もスタートさせる運びとなりました。

### エル・システムの3つの理念

- 1.すべての人が経済的事情を懸念することなく、音楽、芸術にアクセスできることを保障する
- 2.集団(特にオーケストラ)での音楽、芸術活動を通じ、コミュニケーション能力を高める
- 3.社会規範と自己の個性の表現を両立することを音楽体験を通じて学ぶ

### エル・システム(EI Sistema)とは



ホセ・アントニオ・アブレウ博士が南米ベネズエラで1975年に始めた音楽教育プログラム。貧困層の拡大や治安の悪化という問題を抱えていた

同国で、子どもたちを犯罪や非行、暴力などから守り、社会変革を目指すことを目的にスタートしました。現在では政府からの年間予算が100億円にもなる国家プログラムに発展し、約70万人の子どもが参加しています。これまで世界的に活躍する若手指揮者グスタボ・ドゥダメルなど多くの一流音楽家を輩出してきただけでなく、学業面も含めて青少年の育成にポジティブな影響を与えてきたことで、ユネスコ、米州開銀等の外部機関からも高く評価されています。「エル・システム(EI Sistema)」は英語の「ザ・システム(The System)」と同意のスペイン語ですが、プログラム開発に固定のマニュアルがあるわけではなく、現在世界70カ国以上で実施されている「エル・システム」は、アブレウ博士が掲げた理念のもと、それぞれの地域の特性を生かした活動をゼロから組み立てて展開しています。

### 活動内容

## 音楽を通して 生きる力を育む

### 直接的な支援

子どもオーケストラ  
音楽教室、夏期集中講座、講習会、各種コンサートの実施

体験教室

子どもコーラス  
合唱教室、各種コンサートの実施

作曲教室

### 学校を通じた支援

部活動支援  
弦楽合奏、合唱、吹奏楽、金管バンド

音楽授業支援  
鑑賞教室

専門家の派遣  
新たな講師への研修

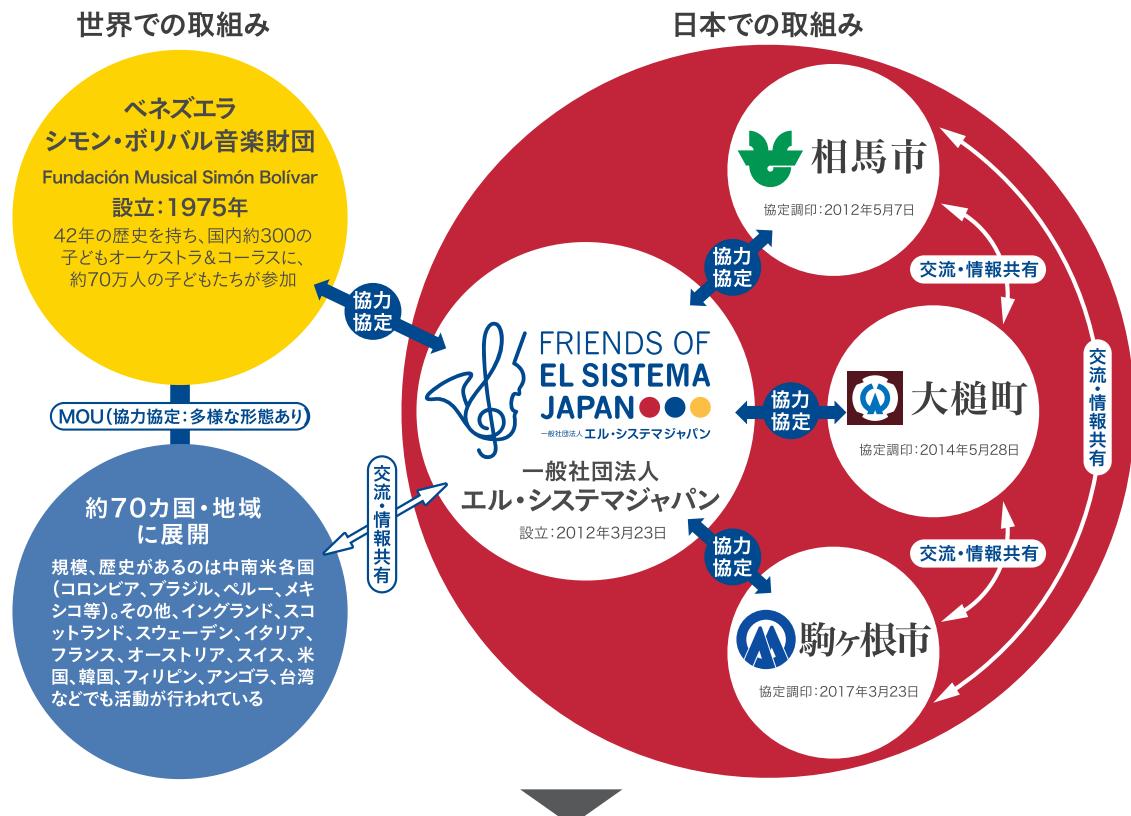
### 総合的な支援

楽器の  
購入・修繕



©FESJ/2016/Mariko Tagashira

## 組織概要



音楽という芸術・教育ツールを応用しながら、社会的・経済的に厳しい状況にいる子どもたちが  
自尊心やコミュニケーション力を育み、より積極的に社会参加できるような基盤作りの支援

## 社会的包摶が実現されている社会

役員・スタッフ (2017年3月現在)

### 理事

菊川穣 (代表理事)  
土井香苗 (Human Rights Watch Japan ディレクター、弁護士)  
竹内章子 (弁護士)

### 監事

矢崎芽生 (公認会計士、税理士)

### スタッフ

本部 5名 (代表理事 1名、従業員 1名、業務委託 3名)  
相馬 4名 (従業員 1名、業務委託 3名)  
大槌 2名 (従業員 1名、業務委託 1名)

### 音楽監督

浅岡洋平 (オーケストラ)  
岡崎明義 (吹奏楽)  
古橋富士雄 (コーラス)

### フェロー (音楽指導ボランティア)

88名

## 沿革

2012年3月	設立
2012年5月	相馬市と「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定書を締結、市内の小学校への部活動支援、音楽授業支援、楽器支援を開始
2012年7月	ベネズエラのエル・システムを統括するシモン・ボリバル音楽財団と了解覚書を締結
2013年2月	初のコンサート「エル・システム ジョイントコンサート」を開催
2013年4月	「週末弦楽器教室」を開始、8月には市内の全ての中小学生を対象を拡大
2013年11月	作曲家・藤倉大氏による作曲教室を相馬市で開始
2013年12月	「相馬子どもオーケストラ&コーラス」の初公演であるクリスマスコンサートを開催
2014年4月	「週末合唱教室」を開始
	相馬市での活動が平成26年度「文化庁地域発芸術文化創造イニシアチブ事業」として市予算化
2014年5月	大槌町と「音楽を通して生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定を締結し、小・中学校の吹奏楽部への支援、楽器支援を開始
2014年8月	大槌町にて「週末弦楽器教室」を開始
2015年3月	「第1回子ども音楽祭 in 相馬」を開催
	「ドゥダメルと子どもたち」を日米エル・システム共同企画でサントリーホールにて開催
2015年11月	ベネズエラのテレサ・カレニョ・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラが来日、相馬子どもオーケストラと大槌町の子どもたちと共に公演
2016年2月	「第2回子ども音楽祭 in 相馬」を開催
2016年3月	相馬子どもオーケストラの代表メンバーによるドイツ公演ツアーを実施
	大槌町の子どもたちと相馬子どもオーケストラの代表メンバーが「響け!復興へのハーモニー～つながる未来～」に参加
2016年5月	アンゴラのカポソカ音楽学院オーケストラが相馬子どもオーケストラと相馬市と東京で共演・交流
2016年7月	大槌町でエル・システムジャパン木管教室がスタート
	ベネズエラのフランシスコ・ミランダ・ユース・オーケストラと相馬子どもオーケストラが相馬市にて共演・交流
2016年11月	台湾の蛹の声音楽計画(EI Sistema Puli)と相馬子どもオーケストラが相馬市で共演・交流
2016年12月	「大槌子どもオーケストラ ミニコンサート」を大槌町で初開催
	「第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬」を開催
2017年3月	駒ヶ根市と「音楽を通じて生きる力を育む」事業の実施運営に係る協力協定書を締結
	エル・システムジャパン設立5周年記念パーティーを開催

## 2016年3月末における 活動状況

2012年3月の設立以来、エル・システムジャパンは地元の人々の郷土愛に基づくアイデンティティを大切にし、地域とともに育む音楽教育を実施してきました。設立5周年を迎えた2017年3月には、長野県駒ヶ根市が3つ目のプロジェクトサイトとして加わりました。



### 福島県 相馬市



一千有余年の歴史と伝統を持つ「相馬野馬追」で知られる福島県相馬市。民謡などの伝統芸能や1950年代からは器楽や合唱などが盛んに行われ、地域の多くの人びとが音楽と深く関わっています。東日本大震災では津波と原発事故の被害を受け、子どもたちは長期にわたり困難な状況に置かれています。そんななか、地域に根ざした音楽活動に参加することにより、子どもたちは仲間との絆を深めながら、地域への愛情と自尊心を育んでいます。

#### 週末音楽教室参加者数 (2017年6月現在)

年齢	オーケストラ	コーラス
小学生	39名	32名
中学生	20名	16名
高校生	6名	3名
合計	65名	51名

#### 学校への支援

相馬市内小学校：9校  
中村第一小学校、中村第二小学校、桜丘小学校、飯豊小学校、大野小学校、山上小学校、八幡小学校、磯部小学校、日立木小学校

#### 日々の活動

平日(日中)：学校の部活支援としてバイオリンの専門家が出向き、指導  
平日(夜)：中学生を中心とした自主練習  
金曜：相馬子どもコーラス 合唱教室  
土曜(午前)：相馬子どもオーケストラ弦楽器教室  
初級(ひつじさんチーム)  
土曜(午後・隔週)：習熟度別グループレッスン(9つの習熟度、楽器別クラス)  
日曜(午前)：相馬子どもオーケストラ弦楽器教室  
中級(ひやかチーム)  
日曜(午後)：上級者(モーツアルトチーム)

#### 練習場所：6力所

相馬市総合福祉センター(はまなす館)、相馬市民会館、相馬市中央公民館、道の駅そうま、LVMH 子どもアート・ゾン、相馬市防災備蓄倉庫

#### 全体としての被益者数(学校への支援を含む)

約2,200名



## 岩手県 大槌町



「虎舞」に代表される豊かな郷土芸能が息づく岩手県上閉伊郡大槌町。東日本大震災では、人口あたりの死者・行方不明者数が最も多いと言われるほど深刻な被害を受け、今でも多くの子どもたちが、仮設住宅での生活を余儀なくされています。また、震災以降は人口流出に歯止めがかからず、吹奏楽をはじめとする学校のクラブ活動は縮小傾向にあります。そのような状況において、子どもたちが自由にのびのびとできる環境づくりを目指しています。

### 週末音楽教室参加者数 (2017年6月現在)

オーケストラ	
未就学児	5名
小学生	31名
中学生	1名
大人	6名
合計	43名

### 学校への支援

大槌町内小・中学校：4校  
大槌学園小学部、中学部、吉里吉里学園小学校、中学部

### 日々の活動

月曜～木曜：放課後バイオリン教室  
土曜：週末弦楽器教室

### 練習場所：3カ所

子どもセンター、吉里っ子スクール、上町ふれあいセンター

### 全体としての裨益者数(学校への支援を含む)

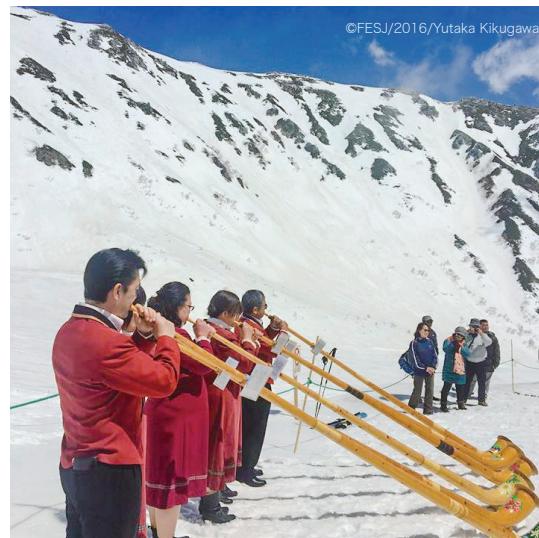
約100名



## 長野県 駒ヶ根市



「アルプスがふたつ映えるまち」、長野県駒ヶ根市。東に南アルプス、西に中央アルプスを望み、神々しい山々が連なります。豊かな自然に恵まれている一方、首都圏からも県庁所在地からも遠く、子どもたちが芸術活動に直接触れたり参加したりする機会は限られています。地方の中の格差に焦点を当て、そこに生きる子どもたちの力を育むという、エル・システムジャパンにとって初の被災地外での支援の試みです。



2017年3月に事業協力協定書調印式が駒ヶ根市で行われ、2017年4月より以下の事業を実施する予定です。

- ① 既存の音楽部活動の支援(赤穂南小金管バンドなど)
- ② 小学生児童を対象とした弦楽器教室の開催
- ③ 子ども音楽祭の開催

## 2016年度のハイライト



相馬子どもオーケストラ&コーラスは、今年度も日頃の練習成果を発表する機会に恵まれました。地元のイベントで合唱や演奏を披露したほか、相馬こどもオーケストラはアンゴラ、ベネズエラ、台湾の若者オーケストラと共に演じるなど、昨年度に引きつづきグローバルな活動を展開しました。また、相馬子どもオーケストラの子どもたちが数多く所属する中村第一小学校器楽部は、「平成28年度こども音楽コンクール」にて文部科学大臣賞受賞という快挙を成し遂げ、子どもたちが生きる力とともに高度な音楽性も身につけていることがうかがえました。

一方、大槌町の子どもたちも着実に力をつけて、今年度は地元のイベントに積極的に参加。年末には、「大槌子どもオーケストラ」の名前で初めてミニコンサートを開催し、家族や地域の方々が温かく見守るなか、子どもたちは晴れの舞台に立ちました。

そして、設立5周年の節目となる2017年3月、エル・システムジャパンは長野県駒ヶ根市と事業協力協定を締結。人口減少や少子化、クラブ活動の存続危機など、日本の地方が直面しつつある深刻な課題を見据え、「地方のなかの地方に生きる子ども」を対象にした新しい支援をスタートすることになりました。

### 2016年4～12月

- 4月7日 「テディ・パパヴァラミ&萩原麻未 特別チャリティーリサイタル」を東京・白寿ホールで開催
- 4月9日 「テディ・パパヴァラミ&萩原麻未 特別チャリティーリサイタル」を相馬市総合福祉センターで開催、相馬子どもオーケストラの子どもたちと交流
- 4月24日 相馬図書館の「こども読書週間」のイベントで相馬子どもオーケストラが演奏
- 5月7日 「“こどもと震災復興”国際シンポジウム2016～相馬地方の5年の歩み～」にて、菊川代表理事が「音楽を通して生きる力を育む～文化芸術による復興、地域創生、国際交流～」を発表、同レセプションで相馬子どもオーケストラが演奏
- 5月13日 「Webでも考える人 震災5年 恩返しの旅 相馬からドイツへ(新潮社・中村真人 著)の連載がスタート
- 5月15日 「カポソカ音楽学院・相馬子どもオーケストラ交流コンサート in 相馬」を相馬市民会館にて開催
- 5月21日 「カポソカ音楽学院 東京公演」に相馬子どもオーケストラが賛助出演
- 6月12日 シンポジウム「音楽を通して生きる力を育んだ3年間～福島県相馬市における週末弦楽器教室の報告～」を青山学院大学キャンパスにて開催
- 6月14日 日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスターの木野雅之先生と洗足学園音楽大学の平沢匡朗先生を大槌弦楽器教室に迎えてレッスン
- 6月18日 大槌学園中等部吹奏楽部、吉里吉里学園音楽部の合同強化練習、大槌高校吹奏楽部の集中練習



- 6月26日 藤倉大氏と大石将紀氏による作曲教室を開催
- 7月4日 相馬市立飯豊小学校、大野小学校、山上小学校にて、おひさまデュオによる鑑賞教室を開催
- 7月10日 「DODAソーシャルキャリアフォーラム～プロボノから開ける、社会貢献につながるキャリア～」に参加
- 7月11日 相馬市立日立木小学校にて、エル・システムジャパンの音楽監督(吹奏楽)の岡崎明義氏によるフルートの鑑賞教室を開催
- 7月17日 大槌町でエル・システムジャパン木管教室がスタート
- 7月30日 ベネズエラのフランシスコ・ミランダ・ユース・オーケストラと相馬子どもオーケストラが相馬市にて共演・交流
- 8月6-9日 エル・システム夏期学習会を相馬市にて開催、大槌町の子どもたちも参加
- 8月11日 「LIGHT UP NIPPON」のイベントで大槌弦楽器教室の子どもたちが演奏
- 8月20日 蒲池愛氏とnagie氏による作曲教室を開催
- 9月4日 「第3回大槌の合唱祭」で大槌弦楽器教室の子どもたちが演奏
- 9月18日 「福島子どものこころと未来を育むシンポジウム～子ども支援 これからの5年 何が必要か～」に、菊川代表理事が参加、報告発表
- 9月20日 宮沢賢治の「暁穹への嫉妬」の除幕式で、大槌弦楽器教室の子どもたちが演奏
- 9月20-22日 ベルリン・フィル指揮者のスタンリー・ドッズさんが大槌町でバイオリン演奏つきの朗読会を開催、子どもたちへ弦楽器を指導・交流
- 10月1日 中川俊郎氏による作曲教室を開催
- 10月5日 相馬市役所新庁舎落成祝賀会で、相馬子どもコーラスが合唱
- 10月6日 「毎日メディアカフェ～困難を乗り越える音楽の力～」にて、菊川代表理事が公益社団法人才能教育研究会の早野龍五会長と対談
- 10月9日 「大槌学園吹奏楽部 第23回定期演奏会」に大槌学園中学吹奏楽部、吉里吉里学園中学音楽部、大槌高校吹奏楽部が参加
- 10月14日 相馬市立中村第一小学校器楽部が「第70回県下小・中学校音楽祭第二部合奏の部」で優秀賞を受賞
- 10月16日 相馬市立中村第一小学校器楽部が「TBC こども音楽コンクール東北大会小学校合奏第一の部」で最優秀賞を受賞
- 10月25日 東北市長会のレセプションで相馬子どもオーケストラ代表メンバーが演奏
- 10月29日 マレック・シュバキエヴィッヂさんのチェロ・リサイタルのアンコールに、相馬子どもオーケストラが特別出演
- 福島県生活協同組合連合会の「創立70周年記念式典&生協大会」にて、相馬子どもコーラスが合唱
- 11月4日 「大槌町民文化祭」で大槌弦楽器教室の子どもたちが演奏



大槌子どもオーケストラ ミニコンサート



第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬



おおつちバラエティーショー



フェローオーケストラ第1回チャリティーコンサート



長野県駒ヶ根市との事業協力協定書調印式

- 11月12日 中川俊郎氏、蒲池愛、大石将紀氏による作曲教室を開催
- 11月19日 台湾のエル・システム埔里(蛹の音楽計画)と相馬子どもオーケストラが相馬市で共演・交流
- 11月23日 「子育てフェス2016 in 大槌」で大槌弦楽器教室の子どもたちが演奏
- 11月26日 NHK 交響楽団のバイオリン奏者・大鹿由希氏が大槌弦楽器教室で指導
- 12月10日 仙台駅での常磐線再開通記念イベントで相馬子どもコーラスが合唱
- 藤倉大氏と本條秀慈郎氏による作曲教室を開催
- 12月18日 「大槌子どもオーケストラ ミニコンサート」を大槌町で初開催
- 12月 24-25日 「第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬」を開催

## 2017年1~3月

- 1月5日 相馬市と相馬商工会議所主催の「新春のつどい」で、相馬子どもオーケストラが演奏
- 1月8日 世界各地でエル・システムの活動をサポートしているバイオリニストのエリエル・ホワンさんが相馬子どもオーケストラの子どもたちを指導
- 2月5日 「おおつちバラエティーショー」で大槌子どもオーケストラが演奏
- 2月20日 「第1回大槌ジョイントコンサート」に大槌高校、大槌学園、吉里吉里学園の中高生が参加
- 2月25日 「平成28年度こども音楽コンクール文部科学大臣賞授賞式・記念演奏会」にて、小学校合奏第一部で最優秀賞を受賞した小学校合奏中村第一小学校器楽部が演奏
- 3月 11-12日 「フェローオーケストラ第1回チャリティーコンサート(東京・多摩/相馬)」を開催
- 3月 未来をはこぶオーケストラ～福島に奇跡を届けたエル・システム～/岩井光子著が汐文社より発行
- 3月23日 長野県駒ヶ根市との事業協力協定書調印式を駐日ベネズエラ・ボリバル共和国特命全権大使、駒ヶ根市役所、市議会、教育委員会、音楽関係者の立会いのもとで実施
- 3月26日 「東北中央自動車道 阿武隈東道路 開通祝賀会」で相馬子どもコーラスが合唱
- 3月27日 バイロイト祝祭ヴァイオリン・カルテットによる「相馬子どもオーケストラ&コーラス支援チャリティーコンサート」を相馬市にて開催、相馬子どもオーケストラを指導
- 3月30日 「エル・システムジャパン設立5周年記念パーティー」を東京・アークヒルズクラブにて開催



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

## 海外ユース・オーケストラとの交流

©FESJ/2016/Mihoko Nakagawa



## カポソカ音楽学院オーケストラ(アンゴラ)

平成28年度文化庁文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業、および日本アンゴラ外交関係樹立40周年記念事業の一環として、カポソカ音楽学院オーケストラと相馬子どもオーケストラの交流コンサートが相馬市と東京で開催されました。2回にわたる共演で一緒に音楽を作りあげることに向き合った両国の子どもたちは、互いの距離を少しづつ縮めて心を通わせ、演奏後の懇親会ではカポソカ音楽学院の子どもたちから相馬の子どもたちへ「次回はアンゴラで一緒に演奏しよう!」と熱いラブコールが送られるほどでした。

内戦は終結したものの、アンゴラにはいまだ地雷が全域に残り、貧富の差が大きな壁として発展の道に立ちはだかっています。そんな環境において、音楽を通して規律や自信を身につけ、チームワークを育むカポソカ音楽学院の若き音楽家たちから相馬の子どもたちが学ぶことはたくさんあったようです。

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/angola-1>



花音さん(高2・バイオリン)  
「戦争や地雷なんかがあるなかで、音楽ができるのはいいことだと思う」



和輝くん(中2・コントラバス)  
「(カポソカ音楽学院の子どもたちは)演奏をする時の体の使い方がいいし、音がきれい。言葉が通じなくても、指差しやジェスチャーで示してくれて親切だった。教えてもらったことを生かしたいです」



仁奈さん(高1・チェロ)  
「アンゴラの子たちは疑問があれば、すぐに質問して学ぼうとする姿勢がすごいと思った。本当に楽しそうに演奏するのでも、自分も楽しくなってきた」

フランシスコ・ミランダ・ユース・オーケストラ  
(ベネズエラ)

ベネズエラからはるばるピースボートで渡航し、相馬まで足を運んでくれたフランシスコ・ミランダ・ユース・オーケストラの23名。ベネズエラの不安定な国内情勢の影響を受け、来日が一旦見送られたり、オーケストラの編成が急遽変更になったりと慌しい調整の末、在日ベネズエラ大使館とピースボートさんの協力を得て、ようやく相馬子どもオーケストラとの交流が実現しました。

エル・システム発祥の地であるベネズエラのユース・オーケストラとの交流の機会を得たのは、今回が2度目。ベネズエラの若者たちが演奏する「ラデツキー行進曲」や「マンボ」は情熱にあふれ、相馬の子どもたちは大きな刺激となったようです。そして一緒に演奏したモーツアルトの「ディヴェルティメント」は、指揮者のアンドレアさんによるユーモアたっぷりの指導もあり、両国の子どもたちは息の合った音色を会場いっぱいに響かせました。

( だい  
題 ベネズエラの方々との交流を通して )  
7月30日にベネズエラの方々と交流をし、演奏を聴いたり、  
一緒にディベルティメントを弾いたりしました。  
指揮者の先生は、ユーモアのある併んで、分かりやすく教えて頂きました。  
ベネズエラの方々はとても優しく接してくれました。  
今回の交流会で学んだことを忘れず、今後の練習向上のために頑張ります。  
ありがとうございました!!



早希さん  
(中2・バイオリン)

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/20160730>

## エル・システム埔里(台湾)



1999年に大震災に見舞われた台湾中部の町、埔里。そこに住む子どもたちを支援する目的ではじまった音楽活動から、エル・システム埔里は誕生しました。今回相馬を訪問してくれた

代表メンバーは15歳から18歳の7名。震災を直接経験した世代ではありませんが、メンバーの多くが一人親家庭で育つなどの困難と向き合いながら、音楽の才能を開花させています。

交流会では相馬子どもオーケストラによる歓迎演奏のあと、エル・システム埔里の皆さんが演奏、そして最後に「くるみ割り人形組曲」と「新世界より」を合同演奏しました。アジアのユース・オーケストラとの交流は相馬の子どもたちにとってはじめてでしたが、エル・システム埔里のメンバーにとってかけがえのない経験になったようです。チェロの黄さんは、「エル・システムのネットワークではじめて誰かに出会えた。日本は台湾と文化も違い、言葉も通じない。でも音楽を通じて、エル・システムが目指す崇高な理念で私たちは結ばれた。それが何よりうれしかった」とコメントを寄せてくださいました。



©Masatoshi Uenaka



©FESJ/2016/Miho Nakagawa

## マレック・シュパキエヴィッチさん

ポーランド出身のマレックさんは、思春期にチェルノブイリ原発事故の惨状を目のあたりにしました。その経験から「福島の子どもたちの力になりたい」と、東日本大震災後はエル・システムジャパンの活動を様々な形で支援してくださっています。

2014年に相馬市で子どもたちと交流したマレックさんは今回、東京でのご自身のチェロ・リサイタルに相馬子どもオーケストラの子どもたちを招待し、アンコールのステージでG線上のアリアと一緒に演奏してくださいました。マレックさんと子どもたちが終始アイコンタクトを交わしながら紡ぐ音はやさしく、美しく、透明感にあふれ、会場はとても和やかな空気に包まれました。

マレックさんと共に演奏でき、私はとてもうれしかったです。アンコールで「G線上のアリア」を一緒に演奏しました。マレックさんはすごく楽しそうに笑顔で私たちと目をあわせていてくれて私もとても楽しめて演奏することができました。これからも、共に演奏する機会があれば一緒に演奏したいなと思いました。それから私は実際に演奏するときにも集中してしまい、笑顔で曲を楽しんでいくことができました。マレックさんのように聴いている人も笑顔になるようなそんな演奏がしたいです。



莉子さん(小6・バイオリン)

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/20161030>

## ～小さな音楽家への贈りもの～

マレックさんは2年前に相馬子どもオーケストラの指導にあつたとき、チェロ・パートの里紗さん(小5)が体に不釣り合いな大きいチェロを弾いていたことに気づきました。当時、ハーフサイズのチェロは1挺しかなく、ジャンケンに負けてしまった里紗さんは他の楽器を勧められましたが、どうでもあきらめきれずに、一生懸命、大きなチェロで練習していました。それを知ったマレックさんは、里紗さんにハーフサイズのチェロをプレゼント。そして、なんと今回の来日では4分の3サイズのチェロを贈ってくださいました。これも子どもの成長に配慮したマレックさんの心遣いです。



里紗さん(小5・チェロ)

「マレックさんにもらったチェロはいい音がする。まだまだマレックさんのチェロの音には届かないけれど、マレックさんに会って、もっと練習をがんばろうと思った」

## スタンリー・ドッズさん

東日本大震災からちょうど5年を迎えた2016年3月11日、相馬子どもオーケストラの子どもたちがドイツへ渡り、ベルリン・フィルのステージで現地の音楽家の方たちとベートーヴェンの「運命」を演奏したとき、タクトを振ってくださったのがスタンリー・ドッズさん(ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団指揮者・バイオリン奏者)でした。スタンリーさんは、ベルリン公演から半年後の9月、相馬市と大槌町をはじめて訪問し、子どもたちに音楽指導をしてくださいました。

また、スタンリーさんご自身がバイオリンを演奏する絵本の朗読会、「はなのすきなうし」も両地で開催。ベルリン公演に参加した子どもたちにとっては心待ちにしていたスタンリーさんとの再会となり、はじめての子どもたちにとっても新しい世界への扉を開く機会となりました。

## ～子どもたちの故郷を訪ねて～



詳細は以下のアドレスから

<http://www.elsistemajapan.org/stanley2016>

### 幹太くん (相馬・中1・コントラバス)

「スタンリーさんはどんな音でも出せて、すごいと思った」



海人くん  
(相馬・小6・コントラバス)  
「あんなふうに音程を外さずに弾けたらいいな」



天使くん  
(大槌・小4・チェロ)  
「最後に、牛がまた花の匂いを嗅げるようになってよかったです」



ベルリンで相馬の子どもたちに出会い、子どもたちがどんな環境にいるのか知りたくなったという、スタンリーさん。東日本大震災の爪痕が今も残る相馬市と大槌町を実際に歩いてまわりました。「被災者ひとりひとりに顔があり、経験があり、そして復興へ向かう強い意志と行動がある。不屈の精神は尊いものです。被災地へ来ると、そういうものがリアルに感じられます」とスタンリーさん。また、音楽には傷ついた心を癒し、人と人を繋ぐ力があるという力強いメッセージを残してくださいました。ベルリンでの共演がまさにスタンリーさんと子どもたちを繋ぎ、その輪が今回の訪問で相馬市と大槌町のほかの子どもたちへ広がりました。



## リチャード・エレジーノさん

ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団で活躍して今年37年目を迎えるリチャードさん(ピオラ奏者)。毎年12月になると大槌町にやってくる、子どもたちにとってはサンタクロースのような存在です。

大槌子どもオーケストラがはじめて主役となる『大槌子どもオーケストラ ミニコンサート』の開演を目前に控えて子どもたちが緊張していると、リチャードさんは呼びかけました。「歌うように弾いてごらん。ここを世界中で一番楽しい場所にしよう」子どもたちは、その言葉を真剣な顔で聞いていました。

震災で親族を亡くしたり、仮設住宅での生活を余儀なくされたりという状況にあっても、一生懸命がんばっている子どもたちを応援したいと、リチャードさんはおっしゃいます。『大槌子どもオーケストラ ミニコンサート』では、ピオラ向けに編曲したバッハの「無伴奏チェロ組曲」をソロで聴かせてくださったほか、最初から最後まで子どもたちに寄りそうように一緒に演奏してくださいました。



## ～少しづつの努力を大切に～



『大槌子どもオーケストラ ミニコンサート』の終演後、リチャードさんを囲むようにして集まった大槌町の子どもたちに、リチャードさんはこう語りかけました。「この1年で、みんなとても上手になったね。昨年はひとりひとりの演奏だったけれど、今年はみんなと一緒に演奏できて、すばらしかった。毎日少しづつ努力するんだよ、1日1円ずつ貯金するようにね」子どもたちの成長をつぶさに見守り、そして、ご自身が音楽と真剣に向き合ってきたリチャードさんだからこそ伝えられる言葉なのかもしれません。毎年12月になるとカリフォルニアからやってくるサンタさんのメッセージを、大槌町の子どもたちはふとしたときに思い出すのでしょうか。

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/20161218otsuchireport>



## テディ・パパヴラミさんと 萩原麻未さん

アルバニア出身のバイオリニスト・テディ・パパヴラミさんと新進気鋭の若手ピアニスト・萩原麻未さんが、エル・システムジャパン主催の東京での特別チャリティーコンサートに出演ください、バッハのシャコンヌやサラサーテのツイゴイネルワイゼンといった名曲の数々を披露。はじめての共演とは思えないおふたりの息の合った演奏、そして力強く深い音色に会場にはため息が漏れました。

その後、テディさんと萩原さんは相馬を訪問し、相馬子どもオーケストラと地域の方々のために演奏してくださいました。子どもたちはプロのソロバイオリニストが奏でる音の響きに心を打たれたようです。交流会では、バイオリンそのものを動かして自然な形で演奏する奏法や、一日にどれくらい練習するなどのお話をテディさんから直接うかがうことができ、子どもたちにとって大きなステップアップの機会になりました。



## ～音楽の力で人生を切り開く～



幼少期に才能を認められながらも祖国アルバニアの政変に翻弄され、フランスへ亡命したテディさん。音楽と向き合うときのストイックな姿勢は、激動の時代にあってもバイオリンひとつで自らの人生を切り開いてきたテディさんの生き様が反映されているようです。東日本大震災から5年を過ぎた今も厳しい状況が続く被災地で、テディさんや萩原さんとの交流は子どもたちにとって大きな励みになりました。

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/papavrami-hagiwara-in-soma>

## 第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬



“子どもたちによる子どもたちのための音楽祭”という精神に基づく、『エル・システム子ども音楽祭 in 相馬』。12月24、25日と2日間にわたり開催された『第3回エル・システム子ども音楽祭』では、2016年を象徴する曲やクリスマスにちなんだ曲の数々が披露され、年末の締めくくりにふさわしい心温まる集いになりました。



## 1日目:相馬子どもオーケストラと市内の中高生による吹奏楽

第1部のトップバッターは、相馬市立中村第一中学校、中村第二中学校、向陽中学校吹奏楽部による合同演奏でした。カラーハーモニカの異なる演目を3校から集まった中学生たちが、ひとつの舞台で力を合わせて元気いっぱいに表現。そして続く高校生による演奏も、相馬高校と相馬東高校吹奏楽部の2校による合同演奏でした。「魔法にかけられて」などマジカルな世界やリズミカルなクリスマスの時間を相馬市民会館に届けました。



第2部は、相馬子どもオーケストラに先生たちやフェロー(エル・システムジャパンの音楽指導ボランティア)が加わり、総勢100名あまりがステージに上がりました。モーツアルトの「ディヴェルティメントK.136番 ニ長調」は心が洗われるような透明感に満ちた演奏。「くるみ割り人形組曲 作品71a」では、ときに勇ましく、ときに優雅で、ときに夢のようにきらきらとしたクリスマスイブの世界に聴衆をいざないました。

プログラムの最後を飾ったのは、「交響曲第9番 ホ短調 作品95『新世界より』」。最年少の小学校3年生も演奏した『新世界』はダイナミックで、かつ集中力の高さが伝わりました。演奏後は相馬市民会館に「ブラボー」の声が飛び交い、地元の方たちもスタンディングオベーションで感動を伝え、会場が一体となった『新世界』でした。

## 2日目:相馬子どもオーケストラ&amp;コーラス／地域みんなのフィナーレ

2日目のステージに最初に登場したのは、相馬子どもオーケストラでした。颯くん(小6・普段はバイオリン)の指揮で、子どもたちはコレッリの「合奏協奏曲集作品6 第4番ニ長調」を堂々と演奏。続いて、ホルストの「セントポール組曲 作品29-2」でドラマチックな世界観で魅せてくれたかと思うと、アンコールは遊び心あふれる「プリンク、プランク、ブルンク」。コントラバスの子どもたちが楽器をくるりと回転させるパフォーマンスをはさんだりして、来場者には思わず笑みがこぼれました。



©FESJ/2016/Mariko Tagashira

一方、相馬子どもコーラスのメンバーが多く在籍する桜丘小学校の子どもたちは、透明感あふれる歌声で「ぼくらのエコー」などを歌いました。そして、中学生や高校生も加わった相馬子どもコーラスは、ツリーのフォーメーションを組んだり、そりに乗るジェスチャーをしたりといったかわいらしい振付とともにクリスマスソングや讃美歌を披露し、会場は楽しいクリスマスのムード一色に。また、『クリスマス・グリーティング』のコーナーでは、相馬子どもコーラスの子どもたちがロウソクに模した灯りを手に白いケープ姿で登場し、聖なる夜の雰囲気に包まれました。最後は、さだまさしさん作詞作曲の「ふるさとの風」で、心に沁みいる歌声が響きわたりました。



©FESJ/2016/Mariko Tagashira

2日目のラストは、相馬子どもオーケストラ&コーラス、相馬高校吹奏楽部、相馬合唱団エスパワール、相馬子どもオーケストラ&コーラス保護者有志コーラスという総勢およそ200名によるシベリウスの「フィンランディア」。子どもから80代までの地元の音楽家たちであふれんばかりの舞台から、神々しいほどの荘厳なハーモニーが響きわたり、まさに圧巻のフィナーレでした。

## ～たくましく成長する子どもたち～



©FESJ/2017/Satoru Tagashira

『子ども音楽祭』の終演後、地域の大人たちから「子どもたちからエネルギーをもらったような気がする」、「とにかく胸が熱くなった。子どもたちの表情がすばらしく、回を重ねるごとに余裕が出てきた。相馬を音楽の都にしたい。私たちは音楽の力でひとつになります」といった声が届きました。また、相馬出身のエル・システムジャパン音楽監督であり、『子ども音楽祭』の実行委員長である岡崎先生は、「この子どもたちは、将来きっと私たちの相馬の文化を担ってくれるでしょう」とコメント。地域のひとたちが見守る舞台で音楽を生き生きと紡ぐ子どもたちの姿は、彼らが着実に力をつけ、前進していることを感じさせてくれました。



詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/201612-3>

## 大槌子どもオーケストラ ミニコンサート



エル・システムジャパン弦楽器教室が大槌町でスタートしてから2年4ヶ月。バイオリンやチェロをゼロから学びはじめた子どもたちは少しづつ腕を上げ、ついに「大槌子どもオーケストラ」の初主演ミニコンサートが新築の沢山地区集会所で開かれました。このミニコンサートには、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団のリチャードさんも応援にかけつけてくださいました。

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/20161218otsuchireport>



### ～弦楽器の風、大槌町へ～

色紙やカラーペンで子どもたちがクリスマスの飾りつけをした会場。開演時間が近づくと、家族や地域の方たちが続々と集まり、子どもたちは少し緊張している様子でした。

最初にお披露目されたのは、「星めぐりの歌」。岩手出身の宮沢賢治が作詞作曲したこの曲は、子どもたちにとっては郷土の誇りです。どこかわなつかしく、ゆったりとした弦楽器の音色に耳を澄ませると、星が夜空に浮かんでは、すうっと流れしていくようでした。続いて「小さな世界」の演奏がはじまるとき、客席にいらした皆さんが曲に合わせて陽気な手拍子を打ってくださいました。その後、「きよしこの夜」、「ジングルベル」など、クリスマスにちなんだ曲が次々と演奏されました。大槌オーケストラのみんなが大活躍したデビューコンサートでした。

終演後にお願いしたアンケートには、「最初の音が出た時の空間の純粋な輝きは、涙が出てしまうほど(20代・女性)」、「みんなが初めて楽器を演奏する姿は真剣そのものでできました(60代以上・男性)」、「8歳の子どもを連れてきましたが、同じ位の子どもたちがバイオリンを弾いている姿を見て、刺激を受けた様子だった(40代・男性)」といったコメントが寄せられました。

もともと音楽の素地がある大槌町。中学校や高校の吹奏楽部は全国コンクールに出場するほどの実力でしたが、東日本大震災後は町の人口流出に歯止めがかからないこともあります。部活動自体の存続が危ぶまれています。そんななかで模索のはじまった“弦楽器の調べ”。課題はいろいろとありますが、「自分にはない価値観にふれることが出来た(60代以上・男性)」、「普段、身近で生演奏を聞けない(60代・女性)」などの感想もいただき、このミニコンサートがさやかながらも大槌町に新しい風を吹きこんだ様子がうかがえました。



## フェローオーケストラとの初共演



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

エル・システムジャパンの活動を「音楽指導ボランティア」として被災地でサポートするなかで生まれてきた、フェロー。その数はひとり、ふたりと増え、志ある音楽家たちの集まりは、フェローオーケストラという大きな夢を生みました。そのフェローオーケストラが、東日本大震災から6年を迎えた3月11日、『第1回チャリティーコンサート』を東京で開催。翌12日には、相馬子どもオーケストラと相馬市で共演し、復興へかける想いをひとつにしました。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira



## “フェローオーケストラ”の誕生

高校1年生から60代のシニアまでが参加するフェローオーケストラの団員数は88名。その多くが学生や社会人としての生活も営むかたわら、フェローとして被災地に赴き、さらに今回の公演へ向けた練習にも励みました。東京公演では、バーンスタインの『ウエスト・サイド・ストーリー』より「シンフォニック・ダンス」などを演奏し、アンコールは本場ベネズエラのエル・システムの18番である「マンボ」を披露。また曲間には、東北の被災地へ向けて、1分間の黙祷を会場のお客さまと共に捧げました。

相馬子どもオーケストラが合流した相馬公演で特に注目を集めたのは、ちょうど1年前に子どもたちがベルリン・フィルで演奏したベートーヴェンの交響曲第5番ハ短調「運命」。この曲を通じて、子どもたちの多くは成長を実感できたようです。また、アンコールのオーケストラ版「相馬盆唄」は、からりと潔い和太鼓とオーケストラの弦楽器が心地よいハーモニーを成し、地元相馬の会場は大いに沸きました。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

## 互いに刺激しあいながら次のステージへ

エル・システムの理念に共感し、技術指導だけでなく、音楽を奏でる喜びを子どもたちに伝えてきたフェロー。相馬公演では、憧れの先輩であるフェローと紡ぐ音色に感覚を研ぎ澄ましている子どもたちの姿が印象的でした。「フェローのように弾いてみたい」という子から、「いつか自分もフェローになりたい」という子まで、その想いは千差万別。身近な大人であるフェローが、子どもたちの夢や目標設定にロールモデルとして大きく影響してきたことは言うまでもありません。

一方で、「音楽が子どもたちを繋ぎ、子どもたちが成長しながら地域コミュニティに元気を与える姿を目の当たりにして、自分たちも成長していかなければならないと思った」と語るのは、フェローオーケストラ代表の八木澤さん。エル・システムジャパンの活動は5年目に入りましたが、子どもたちも関係者も多くのハードルを超ながら、ここまで前進してきました。その一生懸命な姿に互いに触発されることが、さらなる高みを目指す原動力を生みだしているのかもしれません。



©FESJ/2017/Mariko Tagashira

「ランデンブルグ、ディヴェルティメント、カル、運命、相馬盆唄をひきました。うんぬいをひくときには、フェローの人といっしょにひいてうれしかったです。フェローの人が「がんばう」と言ってくれました。そして、ほんばんでうまくひきました。うまくひけてうれしかったです。ランデンブルグの好きな樂しきは、うれしきです。」

那奈さん  
(小2・バイオリン)



「でも一人一人リズムが合って、音色がすごく良かったです。こんなにリズムが合っていたのは、フェローオーケストラの人同しが、仲が良く、チームワークも良いからだと思ひます。もし、フェローオーケストラが私が大人になると時まであったら入りたいなと思いました。このような私は、楽しいえいやつをききたいと思いました。」

凛央さん  
(小4・バイオリン)



「フェローオーケストラが演奏した曲はアーチギットという曲で、とてもやりたかった曲で、弦楽器の音色がとてもきれいでした。この曲は、フェローオーケストラのけがんが、「東日本大震災で被災された方々の気持ちに寄り添いたい」という思いを込めて演奏された曲でした。私たちもその優しい思いが私の胸に届く演奏でした。私たちもフェローオーケストラのけがんのように、「演奏で人に気持ちを伝えたい」ということができたらいいです。」

朱音さん  
(高1・ビオラ)



詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/201612-3>

## エル・システムジャパン作曲教室

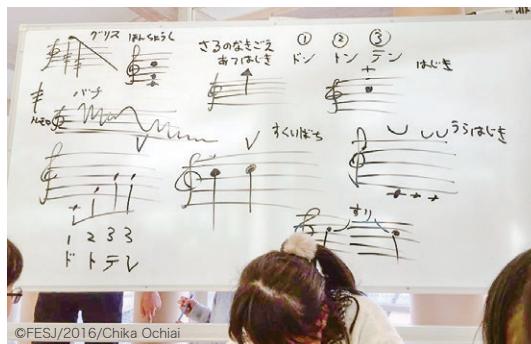


現代音楽作曲家・藤倉大氏による監修のもと、2013年から相馬市で実施してきた作曲教室(特別協賛:LVMH モエヘネシー・ルイ ヴィトン グループ)。この教室では、毎回様々な分野で活躍する作曲家や音楽家を講師としてお招きし、子どもたちが積極的にコミュニケーションをとりながら自分の感性を活かして伸びやかに作曲します。2016年度は5回開催され、被災地の復興へ向けた民間企業のCSR事業としても注目されています。



## 自由に表現できる“生”的創作教室

エル・システムジャパン作曲教室を監修してくださっている藤倉先生は、「自由に創作すること」と「音楽をいい・悪いで評価しないこと」を大切にしています。“音楽はこうあるべき”という姿を追求するのではなく、子どもたちが生の楽器に触れながら、感じたことをそのまま自由に表現できる場がこの作曲教室です。後半には発表会があり、講師の方たちは子どもたちが書いた曲をその場で演奏してくださいます。おかしなメロディー、謎めいた雰囲気、エネルギーの弾けるような響き。既成のルールにとらわれずに書かれた曲はまさにサプライズの連続で、子どもたちは自分が描いた世界がそのまま音になることに引き込まれ、作曲のおもしろさに目覚めるようです。



## 2016年度の実績

- 6月 講師:藤倉大、大石将紀  
楽器:サックス(ソプラノ、アルト、テナー、バリトン)  
8月 講師:蒲池愛、nagie  
楽器:ツール:ピアノ、ストーリーのない映像  
10月 講師:中川俊郎  
楽器:サスペンデッド・シンバル  
11月 講師:中川俊郎、蒲池愛、大石将紀  
楽器:ソプラノサックス  
12月 講師:藤倉大、本條秀慈郎  
楽器:三味線



～藤倉大先生からのメッセージ～  
「人間は皆、生まれつきクリエイティブだから」



作曲教室では、5歳から高校生までを対象に世界から現代音楽のエキスパートの演奏家を迎えて特殊技法等をみっちり紹介し、その場で子どもたちが新しい音楽(現代音楽と呼ぶ人も多いかもしれない)の作曲をする。しかもすべての音や指示を楽譜にきちんと記し、自分の作曲した作品をその場でプロの演奏家に演奏してもらう。子どもたちが作曲中、演奏家は子どもたちが作品の一部を確認したり、コラボレーションしたり、アイディアを楽譜にするために待機したりして、直ぐに試演できるスペシャルな環境を作っている。

この作曲教室を継続してわかったことは、全ての人間は子どもの頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子どもの言葉を借りると「変な音」が好きだったということだ。

2016年度は、大石将紀氏、中川俊郎氏、蒲池愛氏、nagie氏、本條秀慈郎氏をゲスト講師に迎え、相馬の子どもたちと新しい音の世界へ冒険した。2017年度は池袋の東京芸術劇場でも作曲教室を開催予定で、相馬発の活動は東京へと広がっていく。

人間は皆、生まれつきクリエイティブだ。子どもたちが新しい音楽に触れ、そして楽しめる環境をこれからも作っていきたい。

詳細は以下のアドレスから  
<http://www.elsistemajapan.org/composition>



## 音楽監督 からの報告

## 音楽監督 からの報告



浅岡洋平(オーケストラ)

チェリスト、指揮者。東京芸術大学在学中に第31回「文化放送音楽賞」を受賞。ニューヨークのジュリアード音楽院に留学。日米両校において大学院を修了。現在は、指揮者・演出・音楽監督として、クラシック音楽の普及と再創造に取り組んでいる。また、ダルクローズ・メソード、アレキサンダー・テクニーク、ルドルフ・ラバーンの身体表現理論を軸に、ユース・オーケストラ教育カリキュラムの制作と実践指導を行っている。

## 「2016年度の子どもたちの挑戦と成長」

ベートーヴェンの交響曲第5番のベルリンでの全曲演奏の挑戦を経て、今年度の相馬の子どもたちの様子には大きな変化が表れた。顕著だったのは、集中力の増加と持続時間の伸び。そして、技術レベルや目標への達成度といった客観的な視点での洞察も多く見られるようになった。作品が要求する技術レベルの高さに加え、内容に込められた精神性によってもたらされた成長だと考えられる。

この経験を踏まえ、今年度の挑戦はドヴォルザークの交響曲第9番「新世界より」という交響曲の名曲の中でも最も演奏機会の多い大作に挑んだ。演奏時間は前年度のベートーヴェンの倍近い45分と大変な課題だったが、この作品によって個々の読譜力や技術的進歩に加え、音楽に対する理解力の幅も大きく広がった。この交響曲に準じてソルフェージュ力とアンサンブル能力を高める課題として、バロック、古典派のスタンダードな弦楽合奏を定的に学びながら、複合拍子、ポリリズムといった多様な拍子構造や教会旋法を用いた近代の課題曲も学習した。

また、新たな取り組みとして今年度から指揮法のレッスンを開始。技術に余裕があり、学びに積極的な生徒を対象に、実践指導と彼らの指揮による演奏発表も行なった。指揮者育成は積極的に取り組みたいテーマだが、音楽に関する知識や技術的な課題が多いことに加えて、リーダーシップやコーチングといった指導力、統率力に関する学びも多く、学習にかけられる時間的制約が厳しい。試みを継続的に行いつつ、教育プログラムを精査していく必要があると感じている。

年度末に行なった、指導フェロー達との合同演奏会では、ベートーヴェンの交響曲第5番を再演し、この一年での飛躍的な技術の向上を披露すると同時に、相馬子どもオーケストラ独自のサウンドと力強いアンサンブルを示した。このことは、偉大な作品が卓越性を育むことを示す良いモデルだ。相馬の子どもたちの奏でる音には、音楽作品に対する畏敬の念や美しいと感じる想いが素直に立ち現れる。彼らは音を奏でるだけではなく、音に込められた意思のやり取りによって精神を共有しているからにはかならない。



### 岡崎明義(吹奏楽)

フルート奏者。福島県相馬市生まれ。専門学校尚美高等音楽院(現 尚美ミュージックカレッジ)講師。尚美音楽短期大学助教授。尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科教授職を勤め上げる。東京交響楽団との協奏曲共演をはじめ、ソロ演奏や木管アンサンブルなどの演奏活動でも活躍。全国各地で音楽指導者・コンクール審査員も務める。現在、(一社)日本フルート協会代議員、アジアフルート連盟日本本部常任理事。

## 「生徒一人ひとりに希望をたくして」

2016年度の主な活動は、1)相馬市内小学校フルート音楽鑑賞会及び吹奏楽指導(日立木小学校鑑賞会、中村第二小学校鑑賞会、向陽中学校吹奏楽部)、2)第3回エル・システム子ども音楽祭の実施、3)大槌学園吹奏楽指導 が挙げられます。

日立木小学校の生徒さんはとても素朴で素直なのが印象的でした。鑑賞会の会場が音楽室でしたので、一人ひとりの表情が見られて新鮮な交流ができました。津波の被害を受けた地域に近い中村第二小学校は、なんと生徒全員が参加しました。フルートやオーボエの音色に敏感に反応する皆さんに、「音楽はすごい!」と実感しました。特にオーボエの楽器体験では各学年代表が参加し、全体が盛り上がって充実した時間でした。小学校での鑑賞会は可能な限りもっと増やされることを願います。

『第3回エル・システム子ども音楽祭 in 相馬』は実行委員長という立場で、東京での監督会議や相馬の実行委員会および関係者の調整にあたりました。吹奏楽は市内中学校(中村第一中学、向陽中学、中村第二中学)吹奏楽部合同演奏、相馬高校と相馬東高校の合同演奏が揃い、まさに地域をあげての参加で非常に充実した内容となりました。

大槌学園での吹奏楽活動はかなり厳しい環境です。生徒の数が減少している影響で、現在は大槌学園中学部と吉里吉里学園中学部が合同で活動を実施するのがやっとという状況です。合同練習を始めた当初は両中学の生徒たちはお互いぎくしゃくしていましたが、次第に絆を深め、今はいいパートナーとして少人数ながらも、とても明るく音楽活動を行っています。また、昨年度末から大槌高校や一般吹奏楽団との合同練習、コンサートなどを通して交流の輪が広がり、生徒たちは新しい体験の機会を得ました。大変な状況にはあるものの、これらの活動を地元の中学校部活顧問の先生たちが積極的に支援してくださいっており、とても心強いです。私自身、非常に生きがいを感じておらず、来年度もますます力を入れていきたいと考えています。



古橋富士雄(コーラス)

指揮者。NHK東京児童合唱団常任指揮者(音楽監督)、桐朋学園大学音楽部講師、東京家政学院短期大学講師、日本合唱指導者協会理事長、浜松市アクトンティ音楽院音楽監督、日本コーディー協会理事を歴任する。特に40数年に渡り「NHK 東京児童合唱団」を愛情と情熱に満ちた指導により世界レベルの合唱団に育て上げ、国内外数多くの賞を受賞し、日本における第一線の演奏団体に育てた氏の力量は称賛されている。

### 「相馬子どもコーラス、その成長と期待」

3回目を迎えた子ども音楽祭が2016年12月24日～25日相馬市民会館(福島県相馬市)で行なわれ、合唱団は25日に出演しました。ステージに登場した55名の子ども達は堂々としたベテランの入場。そして4列に並んだその姿は、均等に配置され、美しくフォーメーションされていました。初めてご覧頂いた方達はこれだけで感動した事でしょう。そして演奏を聴いて再び驚いたことでしょう。外国語を含む膨大な曲数を全て暗譜し、自分のものにして歌っていたのですから…。これだけクオリティーの高いステージを見せる子ども達のコンサートは東京でも限られた合唱団しかありません。練習は嘘をつきません。緻密な積み重ねがその成果を生むのでしょうか!

練習では、先に来たメンバー(どんなに低学年であっても)は全員のイスを並べます。そして、練習が始まると、誰が指示するわけでもないのに高学年は低学年の傍に寄り添い、楽譜を指さしながらどこを歌っているのか、音がどう違うのかなど指示し、優しく教える姿があります。

そして練習が終わると使ったイスは元に戻し片付けます。イスを積み重ねて所定の位置に収納するわけですが、ここでも高学年は背の低い低学年に無理して高い位置に片付ける事はさせません。集まって歌うだけではなく、合唱で培かれた習慣が人として大きな成長をとげているのです。初めて見学された人はこの姿を見て特別な出来事のように思うかも知れません。しかし、何でも無い日常が…、そのチームワークが…、良いアンサンブル、ハーモニーをつくりだすのです。

私達指導スタッフは、皆さん音楽家であり教育家でもあります。日本では学校の先生は教育家といわれ、私のような指揮者は音楽家と言われます。今、アメリカで盛んに言われている言葉でティーチング・アーティスト(T・A)と言う言葉があります。我々が子ども達と接するとき、音楽の技術だけを教えていません。ふれ合いの中で《学び》と言う《旅》を生徒達と深め、しっかりとしたものにしていくことなのです。そして音楽的プロセスを体験的に理解させることで生徒達は自分なりの貴重な経験ができ、新しい発見をするのです。

今年の秋は東京の『東京芸術劇場』での演奏も決まりました。美、人間性、勇気、喜びを見つけ、想像力、関心、好奇心を高めて、音楽以外の《営み》の中でも音楽が重要な役割を担えてくれる子ども達に成長してくれる事を願っています。



©FESJ/2016/Mariko Tagashira

現場の声

相馬市



エル・システムジャパン  
弦楽器指導担当  
**須藤亜佐子**

この一年を振り返ると、子どもたちの成長には目を見張るものがありました。それは難しい課題でも一フレーズずつクリアしていくけば、仕上げられるという作業が苦でなくなっているように思え、逃げない心が鍛えられています。友達といっしょの集中、工夫、努力(毎日の一生懸命)が生きる力だと思います。常に前向きに、精進を重ね感謝の心を持つ。私たち指導者は、そんな子どもたちの目標に向かって、生活の中に音楽は当たり前にあるという人生にしてほしいという願いを持ってレッスンに工夫をしていきたいと思います。



相馬子どもコーラス  
指揮・指導担当  
**小島弥生**

相馬子どもコーラスは今年も古橋先生の御指導を頂き、今までとまた違うジャンルの曲に挑戦して多くの「新しい学び」を獲得することができました。最初は難しいように思える曲でも頑張ってクリアすれば、その先にある新たな音楽の世界を見せ、そのおもしろさに気づかせ、学ぶ意欲に満ち溢れるよう教え導いて下さい。そして今年は映利先生のステージングでさらに楽しく表現の喜びをたっぷりと味わい、子供たちは「未来へ繋がる本物の楽しさ」を体感しました。10月相馬市役所新庁舎落成記念祝賀会・12月常磐線運転再開イベント・1月福島県労働10団体新春祝賀会・3月阿武隈東道路開通記念祝賀会と、たくさんの会場にお招き頂き楽しく演奏しました。ご支援下さる皆様に心から感謝申し上げ、今後更なる学びと心の磨きをかけた子供たちの成長の助けとなるよう、現地指導者として心を引き締めて取り組んでいきたいと思っています。



磯部小学校長  
**佐藤和子**

毎朝、校舎中に響き渡るのは自主的に練習するトランペット等の音色です。全校児童34名、全員が参加する鼓笛隊の活動は、本校の特色ある活動の一つです。東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた磯部地区、本校はこの6年間で児童数7割減となりました。著しい環境変化の中、様々な思いを抱く子ども達にとって音楽を表現する活動は、ふるさと磯部の良さを感じながら自己肯定感を高め、豊かな心を育む大切な学びの場となっています。技術面は、エル・システムジャパン様から継続的にご指導をいただきました。運動会は終わりましたが、交通安全パレードや復興長屋での披露会に向け、地域の方を笑顔にしようと今日も子ども達は練習に励んでいます。



相馬子どもオーケストラ  
講師(元 読売日本交響楽団ピオラ奏者)  
**橋本顕一**

相馬子どもオーケストラと関わりはじめて、1年が経過。音楽を純粋に楽しんでいる姿や輝く目は、長い間「仕事」として演奏していた僕には眩しいくらいでした。また、堂々とした暗譜での演奏には感心させられます。僕も中村第一小学校時代、器楽クラブに所属していましたが、当時とは比較なりません。子どもの記憶力や音程の良さには脱帽です。この1年で音の表現の幅も随分広がりました。まったく楽器に触れたこともないのに、これだけ弾けるようになるには、子どもの努力はもちろん、ご家族、先生方、イベントなどのお手伝いをして下さる方々等の熱いサポートがあってのことです。これからも色々な経験を積んで、みんなで音楽を作っていく喜びを高めていって欲しいと思います。



フェロー  
**真鍋友花**

相馬の子どもたちは、「楽器を弾きたい! うまくなりたい!」という気持ちがとても強く、彼らが楽器を構えると大きなエネルギーを感じます。今年度、フェローオーケストラというフェロー中心のコミュニティができました。たくさんの方のサポートもあり、3月には子どもたちとの初の共演が叶いました。子どもたちはそのエネルギーで私たちを彼らの世界へ巻き込み、フェローと子どもという関係ではなく同じ演奏者として一つの演奏を作ることができました。この一年を通して子どもたちの演奏に対する責任感や自主性がとても大きくなっているように感じました。

これからも子どもたちが音楽を楽しみ続けることで、さらに多くの人にその力を伝搬させ、このような体験をする子どもが増えていくことにつながれば嬉しいです。



相馬子どもコーラス  
保護者  
**森田幸恵**

震災後、娘が小学校の合唱部に所属しながらエル・システムジャパンのコーラスで活動し、今は中学3年生になりました。歌う事の楽しさ、ハーモニーを作り出す喜び、学年を超えた仲間との繋がりなど多くの事を学ばせて頂いています。また、古橋富士雄先生のご指導を受けられる日は特に楽しみにして参加しています。練習を重ね子ども音楽祭等のステージでは日本語以外の外国语の曲を何曲も覚え歌いこなす姿には毎回圧倒され、子どもたちの未知なる素晴らしい力を感じます。また、コーラスの素敵なハーモニーを聴くたびに自然に涙がでて心に響く歌声に感動するばかりです。今後さらに多くのステージで心に残る素敵な歌声を聴かせて欲しいと思います。





大槌プロジェクト  
弦楽器指導担当  
櫻井うらら

大槌町は、山の幸、海の幸があり、夜には満天の空が広がり、とても自然が豊かな土地です。大槌の子ども達は、元気いっぱい、何事にも好奇心旺盛で、いろいろなことに取り組んでいます。今あるものでなにが出来るかを子ども同士で考え、行動する姿や発想力にはいつも驚かされます。昨年は町に新しい学校ができたり、仮設住宅から新居に移ったりなど、環境の変化や不安定な状況の中でエル・システムジャパンの弦楽器教室に通う子もいます。教室での活動を通してなにか自分が得意とするものや、やりがいを子ども自身が見つけ、周りの大人が子ども達の個性を伸ばし、自身の自信に繋がっていく、そんな場になって欲しいと思っています。素晴らしい音楽に触れた時に、子ども達が自分もこうなりたい、この曲が弾けるようになりたいと話してくれることが指導をしていて一番のやりがいです。これからがすごく楽しみです。



フェロー  
近藤純子

大槌教室は、こじんまりながらオープンで和やかな雰囲気、例えるなら寺子屋です。筆・硯・紙に代わって楽器と楽譜があり誰でも歓迎、音楽好きの友達と先生が待っていて、幅広い年齢（3歳～大人！）の生徒さんが、時を過ごしていきます。習熟度の違う子ども達が一緒に練習するのは難しいのですが、そこを子ども達の成長がカバーします。友達を助けるのは嬉しいし少し得意そうです。また友達から教えてもらうことは刺激になります。助け合い社会が芽生えています。家庭でも学校でもないこの場で自分の新しい力を発見することは自信と誇りを育てるでしょう。ふとした場面で子供達の生き生きとした、また真剣な表情を垣間見る、フェロー冥利につきる一瞬です。



大槌子どもオーケストラ  
保護者  
黒川由美子

ふたりの子どもたちが2015年秋からチェロを弾き始めて1年半経ちました。以前と比べて、やりたいことを考え、そのためにはどうしたらいいのか?と自発的に行動するようになったことは大きな変化です。エル・システムのスローガンのスペイン語原語が「TOCAR Y LUCRAR」であるように、子どもたちも毎日精一杯闘いながら、練習に取り組んでいます。これからも、たくさんの良い出会いを経験して、奏でながら逞しく成長していく様子を見守っていきたいです！



大槌子どもオーケストラ  
保護者  
澤館満

昨年12月に開催された「大槌子どもオーケストラ ミニコンサート」では、家族で参加させて頂きました。本番を前に、自宅で練習する子供の様子は、目標に向かって挫けずに、積極的に取り組む姿勢が養われている事を感じておりました。コンサート当日は、練習の甲斐があってか、自信を持って楽しく演奏できたようで、来場した皆様から温かい声援も受け、誇らしげな笑顔の中には、やり遂げた満足感と、次の目標へのステップとなったようです。



エル・システムジャパンは活動成果を客観的に評価し、今後の活動の方針を定めていくために、2013年度より外部評価調査を実施しています。2016年度は慶應義塾大学SFC研究所 社会イノベーション・ラボの玉村雅敏研究室が、相馬市と大槌町で自治体との協力に基づいてエル・システムジャパンが実施した活動のインパクトおよび課題の可視化をはかりました。

## 関係者と共に エル・システムジャパンの 価値や可能性を言語化

本調査では、エル・システムジャパンの事業がもたらす子どもたちの成長の可能性に加えて、地域の人々への波及効果を明らかにすることを目的としました。また、今年度からは2013年度より実施している福島県相馬市の評価事業に加えて、岩手県大槌町での事業についての評価も加わっています。

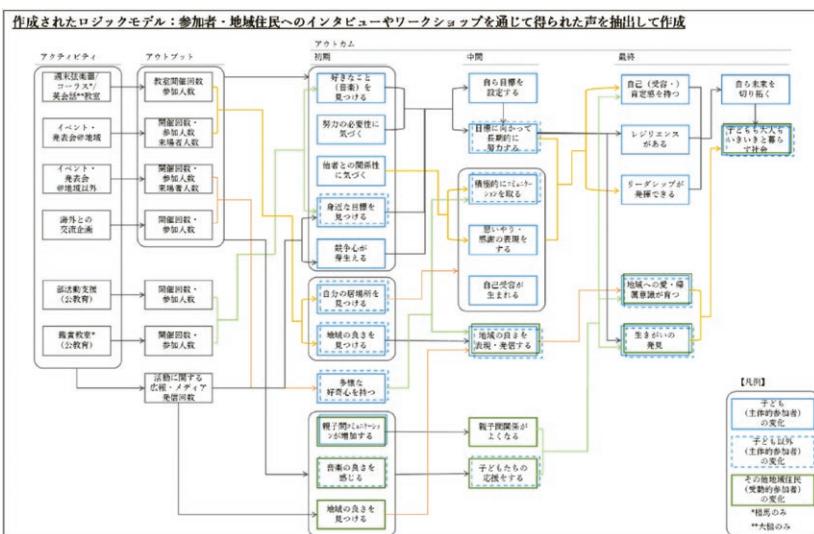
エル・システムジャパンの活動が、子どもたちの成長や地域の人々のつながりに対してどのような効果があるのかを論理的に、明確に示すことを目的に、関係者へのインタビューやワークショップの実施、アンケートを通してその価値を言語化、定量化することを目指しました。こうした評価が重要な理由は大きく3つあります。一つは、インタビューやワークショップというプロセスを通じて、子どもや保護者、あるいは職員同士が

エル・システムジャパンについて語る機会があることで、関係者同士の対話を促せることです。これは団体のミッションを互いに明確にすることにも役立つと考えられます。次に、各関係者の役割や活動のもたらす成果を分析した結果を活用することで、今後のより効果的な活動に活かせることです。最後に、関係者に対しての客観的な説明に活用することができます。特に、相馬市や大槌町といった地方自治体の協力を得て実施している事業であることも踏まえ、多様な人々への説明に活用することができます。

本調査ではまず、子ども、保護者、その他の行政関係者や職員の方々に「エル・システムジャパンの活動に『どのようなことが期待され』『実際にどのような成果が認識されているか』を中心にお話を伺いました。その際、グループインタビューや複数人でのワークショップ形式をとることで、関係者同士の対話を促すような設計としました。

抽出された声を基に、頻出するエル・システムジャパンの価値や課題を整理、言語化とグループ分けを実施しました。整

理された言葉を基に、「エル・システムジャパンのどのような活動が、どのような成果をもたらす可能性があるか」についての因果関係を説明する「ロジックモデル」を作成しました。活動が「目標の設定」や「積極的なコミュニケーション」といった子どもの変化につながり、最終的には「自ら未来を切りひらく子ども」であり、「子どもも地域の人々もいきいきと暮らす社会」という成果につながるというモデルになっています。

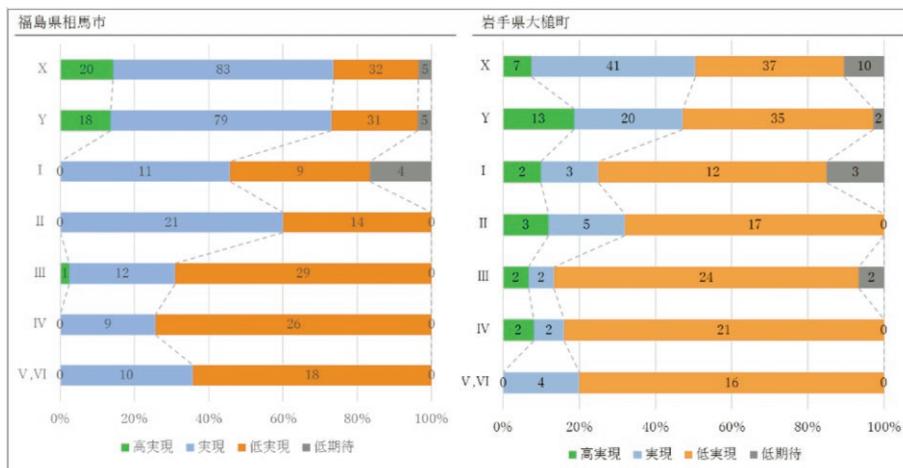


↑作成されたロジックモデル



## 「みんなと音楽を楽しむこと」 「目標に向かって努力すること」 に高い実現率

ロジックモデルで示されるような効果が、どの程度期待され、実現されているのかを定量化するため、インタビューに協力していただいた方より広い範囲でアンケート調査を行いました。これにより、相馬市、大槌町共に「音楽を楽しむ」ということが広く実現できていることが明らかとなり、幅広い関係者から、参加している子どもたちが自由に楽しみ、表現する場として高く評価されていました（約80%が実現と回答）。相馬市では特に一部の子どもたちは目標に向かって努力すること（約60%が実現と回答）、大槌町では自由に友だちや地元の人と音楽を楽しむことや、地元のことを好きでいることなどが実現できているという認識があることが明らかになりました。また、地域や教室、それぞれの参加年数によっても期待される成果や、実現されている成果は異なり、今後の団体内での議論等の焦点にもなると考えられます。



↑一部の成果項目にでは、実現度が地域で異なる結果となっている

## 関係者と対話し続け、 進化しながら継続する

「子どもも市民もいきいきと暮らす地域」を実現するため、対話を通じて新たに理念やその提供価値の整理を行なながら、「みんなと音楽を楽しむ居場所」を継続していくことが期待されます。

（慶應義塾大学SFC研究所 調査担当者：落合千華）

## 財務報告

### 監査報告書

監査報告書

2017年5月16日

一般社団法人 エル・システムジャパン  
代表理事 菊川 稔 殿

監事 矢崎 芽生 

私は、2016年1月1日から2017年3月31日までの事業年度の理事の職務執行ならびに会計について監査をいたしました。その方法および結果について、次のとおり報告いたします。

#### 1 監査の方法及びその内容

- (1) 業務監査について、理事会に出席し、理事、及び事務局から業務の内容を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて、業務の妥当性を検討しました。以上の方に基づき、当該事業年度にかかる事業報告について検討いたしました。
- (2) 会計監査について、帳簿、ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表等の正確性を検討しました。

#### 2 監査意見

- (1) 事業報告等の監査結果
  - 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
  - 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重要な事実は認められません。
- (2) 財務諸表等の監査結果
 

財務諸表等は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

### 平成28年度 貸借対照表

平成29年3月31日現在[税込](単位:円)

科目	金額
<b>資産の部</b>	
<b>流動資産</b>	
現金・預金	129,728
ゆうちょ 普通	552,777
三菱東京 UFJ 普通預金	691,466
現金・預金 計	1,373,971
売上債権	
未 収 金	8,719,226
売上債権 計	8,719,226
その他流動資産	
前払 費用	4,000
未収消費税等	431,500
その他流動資産 計	435,500
<b>流動資産合計</b>	<b>10,528,697</b>
<b>固定資産</b>	
有形固定資産	
楽器 類	6,016,200
減価償却累計額	△ 3,776,640
有形固定資産 計	2,239,560
無形固定資産	
ソフトウェア仮勘定	6,480,000
無形固定資産 計	6,480,000
投資その他の資産	
敷 金	968,800
投資その他の資産 計	968,800
<b>固定資産合計</b>	<b>9,688,360</b>
<b>資産の部 合計</b>	<b>20,217,057</b>
<b>負債・正味財産の部</b>	
<b>流動負債</b>	
未 払 金	10,146,331
預 り 金	409,951
流動負債 計	10,556,282
<b>負債合計</b>	<b>10,556,282</b>
<b>正味財産</b>	
一般正味財産	603,096
指定正味財産	9,057,679
正味財産 計	9,660,775
<b>正味財産合計</b>	<b>9,660,775</b>
<b>負債・正味財産の部 合計</b>	<b>20,217,057</b>

### 平成28年度 正味財産増減計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日(単位:円)

科目	事業会計	法人会計	合計
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>			
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>I. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
受取会費			
正会員受取会費	16,080	7,920	24,000
賛助会員受取会費	1,857,267	914,773	2,772,040
受取助成金等			
受取公的補助金(市、国)振替額	23,464,000	0	23,464,000
受取寄付金			
受取寄付金(個人)	2,481,320	275,702	2,757,022
受取寄付金(企業・団体等)	9,515,445	1,057,272	10,572,717
受取指定寄付金振替額	12,742,361	1,415,818	14,158,179
事業収益	3,018,942	1,486,942	4,505,884
受託事業収益	17,573,216	1,952,580	19,525,796
雑収益			
受取利息	0	817	817
<b>経常収益計</b>	<b>70,668,631</b>	<b>7,111,824</b>	<b>77,780,455</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
事業費			
現地事業費(相馬)計	43,943,125	0	43,943,125
現地事業費(大槌)計	14,766,989	0	14,766,989
現地事業費(駒ヶ根)計	27,176	0	27,176
減価償却費	1,064,832	0	1,064,832
現地事業費計	59,802,122	0	59,802,122
広報資金調達事業費 計	11,489,144	0	11,489,144
事業費計	71,291,266	0	71,291,266
管理費計	0	5,972,910	5,972,910
<b>経常費用計</b>	<b>71,291,266</b>	<b>5,972,910</b>	<b>77,264,176</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>-622,635</b>	<b>1,138,914</b>	<b>516,279</b>
<b>2. 経常外増減の部</b>			
<b>(1) 経常外収益</b>			
経常外収益計	0	0	0
<b>(2) 経常外費用</b>			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-622,635	1,138,914	516,279
一般正味財産期首残高	754,904	-668,087	86,817
一般正味財産期末残高	<b>132,269</b>	<b>470,827</b>	<b>603,096</b>
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄付、補助金等			
受取寄付金	2,948,340	0	2,948,340
受取公的補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額			
寄付金の振替額	12,742,361	1,415,818	14,158,179
公的補助金の振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	-9,794,021	-1,415,818	-11,209,839
指定正味財産期首残高	18,240,766	2,026,752	20,267,518
指定正味財産期末残高	<b>8,446,745</b>	<b>610,934</b>	<b>9,057,679</b>
<b>III. 正味財産期末残高</b>	<b>8,579,014</b>	<b>1,081,761</b>	<b>9,660,775</b>

※ 財務諸表の全文は、エル・システムジャパンのホームページ(<http://www.elsistemajapan.org>)よりご覧いただけます。

## メディア掲載 一覧

今年度も国内外の数多くのメディアによる取材を受け、  
エル・システムジャパンの活動を伝えていただきました。  
ウェブ、紙媒体等で紹介された記事一覧です。

4月	ソトコト5月号 ソ 生きる力を育む南米発の音楽教育 トボラ新聞	福島民報	復興支援 各200万円贈る アサヒグループ 相馬、南相馬市に
	BAND LIFE 5月号	朝日新聞 (福島版)	「相馬の歌」仙台に届けたよ♪ 子どもコーラス39人
	<特集>美味しいフレンチホルンの7 つの嘶 自分の音で奏でよう 発売直後から大反響!話題の一冊「自 分の音で奏でよう」の著者ファーガス・ マクワイアムさん ベルリンフィルで活躍する彼は、実は 日本に素敵な贈り物を続けている	岩手日報	子ども音楽家堂々と 大槌の教室 住 民に披露
5月	福島民友新聞	読売新聞	練習重ねた音奏でる 大槌 子どもオケ 初の演奏会
	福島民報	ラジオ福島	
	新潮社「考える人」連載 震災5年 恩返しの旅 相馬 オンライン版	福島民報	×マスソング披露 相馬で子ども音楽 祭
	福島民報	PrimeSeat	「ON DEMAND」
6月	岩手日報	福島民報	TBSこども音楽コンクール全国大会 小学合奏 中村一(相馬)日本一
	いわて復興だより 第109号	YouTube	2月 「困難を乗り越える音楽の力」～ズスキ・ メソードとエル・システムジャパン、トップ 対談 毎日メディアカフェ 相馬の児童活動 オーケストラ所属 中村一小9人「日本一」エル・システムジ ャパンの音楽教育支援 3月で5年
7月	未来のさんりくびと	福島民報	こけし
8月	聖教新聞	音楽之友社「教育 音楽3月号」	巻頭カラー特集 第3回エル・システム 子ども音楽祭 in相馬
9月	岩手日報	福島民友	@BOOK カフェ 村田権一さん 『世界でいちばん貧しくて美しいオ ーケストラ』トリシア・タンストール著 音楽教育 尊さ気付く
	希望・絆のパ イリソ・鎮魂 94歳の巨匠と” 共演” 吉里吉里学園児童	毎日新聞	震災6年・首長に聞く:/6 立谷秀清・ 相馬市長「震災前」超す復興を
	福島民友	福島民報	中村一小・福大付属中たたえる TBSこ ども音楽授賞式
	福島民報	毎日新聞福島版	受賞曲喜びの演奏披露 相馬・中村第 一小器楽部
10月	子ども支援在り方探る	福島民報相双版	「日本一」の演奏披露 豊かな旋律を奏 でる 文部科学大臣賞の中村一小器 楽部
	福島民報	福島民友相双版	子どもたち堂々演奏 相馬で合同コンサ ート
	日経グローカル第 300号	福島民報相双版	弦楽の豊かな音色 相馬でチャリティー 演奏会
	自治体-NPO新連携ガイダンス NPO との活動にふるさと納税活用 音楽で 子どもの『生きる力』育む	岩手日報	ここで輝く66 愛知県津島市から大槌町へ 櫻井うらら さん(弦楽器講師)心表現する技伝える
	朝日新聞		
	ベルリン・フィル指揮者 相馬の子らを 指導		
11月	福島民報		
	元気に鼓笛パレード 磐部幼稚園と磐 部小演奏		
	福島民報		
	笛谷など全国へ 県下小・中学校音楽 祭 第2部合奏小学校の部		
	MAINICHI ME- DIA CAFÉ		
	スズキ・メソード早野氏ら 音楽教育で 対談 千代田「困難乗り越える力に」		
	福島民報		
	県勢7部門で最優秀賞 こども音楽東 北大会 器楽8部門中		
11月	25ans 2017年 1月号		
	2月号の売り上げの一部をエル・システム ジャパンに寄付します		





ご協力いただいた  
アーティストの  
皆さま

今年度も国内外のアーティストの方々に活動を支えていただき、  
一流の芸術を子どもたちに届けるというエル・システムの理念を  
実現することができました。心より御礼申し上げます。

- 阿部翔太郎(マーチング)  
伊藤萌(トランペット)  
伊藤悠貴(指揮、チェロ)  
イヴリー・ギトリス(バイオリン)  
上杉理香(バイオリン)  
上原千穂(バイオリン)  
ウルフ・クラウゼニッツァー(バイオリン)  
エリエル・ファン(バイオリン)  
大石将紀(サックス)  
大澤愛衣子(バイオリン)  
大鹿由希(バイオリン)  
小田礼子(ボーカル、ギター)  
金子渚(ピアノ)  
カポソカ音楽学院オーケストラ(オーケストラ)  
蒲池愛(作曲)  
川満恵一郎(サックス)  
木野雅之(バイオリン)  
久次米莉緒(ハーフ)  
小林佑太朗(ファゴット)  
コロンえりか(ソプラノ)  
斎藤舞(オーボエ)  
阪永珠水(バイオリン)  
佐々木良寛(パーカッション)  
シンコアーニョス(5 anos)(ベネズエラ民族音楽バンド)  
スタンリー・ドッズ(指揮、バイオリン)  
臺隆裕(トランペット)  
竹森かほり(クラリネット)  
塙田舞(ファゴット)  
TSUCHIOTO(ジャズバンド)  
テディ・パパヴラミ(バイオリン)  
中川俊郎(作曲)  
萩原敬士(トランペット)  
萩原麻未(ピアノ)  
橋本顕一(ピオラ)  
ハルモニア・フォンテ(室内楽)  
平沢匡朗(ピアノ)  
フェローオーケストラ(オーケストラ)  
藤倉大(作曲)  
フランシスコ・ミランダ・ユース・オーケストラ(オーケストラ)  
ベルンハルト・ハルトーク(バイオリン)  
埔里バタフライ交響楽団(オーケストラ)  
本條秀慈郎(三味線)  
眞峯紀一郎(バイオリン)  
マレック・シュバキエヴィッヂ(チェロ)  
ミヒヤエル・フレンツェル(バイオリン)  
モリース・レーナ(クラフト)  
ラッキィ池田&彩木エリ(振付)  
リチャード・エレジーノ(ピオラ)  
山本大(ホルン)  
湯浅真帆(ピアノ)

2016年4月～2017年3月の間に協力を下さったアーティストの方々の  
お名前を掲載しております(敬称略、五十音順)

## ご支援 いただいた 皆さま

今年度も多くの個人、団体、企業の皆さまよりご支援をいただき、エル・システムジャパンの活動を実施することができました。皆さまのご厚意に心よりお礼申し上げます。

**[あ]**  
 アークヒルズクラブ  
 IPPNW-Concerts  
 株式会社アイブロックス  
 青柳千尋  
 青山学院大学  
 芦屋国際中等教育学校コーラス部  
 Alex Ramirez  
 Seiko Ishikawa  
 石川勉  
 石原来美  
 在日イタリア共和国大使館  
 井上智治  
 岩田学  
 株式会社インプレザリオ  
 英治出版みらい基金  
 LVMH モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン グループ  
 オアシス楽器店  
 大槌町  
 大堀相馬焼松永陶器店  
 小原剛  
**[か]**  
 株式会社 KAJIMOTO  
 カロンデレットの聖ヨゼフ会  
 川原直  
 gooddo 株式会社  
 クラリス・オーケストラ  
 Global Giving  
 黒坂三重  
 慶應義塾大学 SFC 研究所  
 小堀月浦  
 コロンえりか  
**[さ]**  
 斎藤紀子  
 公益社団法人才能教育研究会  
 坂之上洋子  
 坂間裕見子  
 佐藤真  
 C.N.Gビデオプレス  
 ジオアーステクノ株式会社  
 塩田真弓  
 Siegfried Lörcher  
 芝崎智子  
 柴田博史、淳子  
 島村みどり  
 清水道子  
 上越歌ごろの会(さくら草・のぎく)  
 真如苑  
 相馬市  
 株式会社ソリテ  
**[た]**  
 ダイアローグ・イン・ザ・ダーク  
 細田英哉  
 立谷秀清  
 田中果樹園

津田大介  
 Tedi Papavrami  
 東京JCコンサートクラブ  
**[な]**  
 西村晴子  
 仁藤里香  
 日本アイ・ピー・エム株式会社  
 一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会  
 日本ベネズエラ協会  
 日本・ラテンアメリカ婦人協会  
**[は]**  
 Peter Hauber  
 萩原麻未  
 株式会社白寿生科学研究所  
 早野龍五  
 原浩之  
 ハルモニア・フォンテ  
 株式会社HANDSON  
 廣野孝男  
 深堀純子  
 福羽泰紀  
 舟越一郎(funaco design studio)  
 古橋富士雄  
 文化庁  
 駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館  
 株式会社ホテルオークラ東京  
 堀主知ロバート  
**[ま]**  
 松木真知子  
 松野敦子  
 三尾徹  
 水野真里子  
 三多隆志  
 ミンネ・シュティムメ  
 Musik Platz/上原千穂  
 最上沙紀子  
 本江博子  
 守口毅  
 森桂子 & Marek Szpakiewicz  
 文部科学省  
**[や]**  
 矢崎芽生  
 山田玲子  
 株式会社ヤマハミュージックジャパン  
 吉江一男  
**[ら]**  
 楽天株式会社  
 Rewari Hotel Berlin  
 六本治子  
**[わ]**  
 若林直子  
 若山純司  
 渡辺満子

2016年4月1日～2017年3月31日の間に原則5万円以上のご寄付、及びボランティアで各種技術協力を下さった個人、企業、法人のお名前を、ご本人の了承を得た上で掲載しております(敬称略、五十音順)





## エル・システムジャパン活動報告書2016

エル・システムジャパンは、HP、Facebook、Twitterを通じて、活動のアップデートを隨時ご報告しています。こちらもぜひご覧ください。

ホームページ  
[www.elsistemajapan.org](http://www.elsistemajapan.org)

facebook  
 [elsistemajapan](https://www.facebook.com/elsistemajapan)  
<https://www.facebook.com/elsistemajapan>

twitter  
 [@ElSistemaJapan](https://twitter.com/ElSistemaJapan)  
<https://twitter.com/ElSistemaJapan>



一般社団法人 エル・システムジャパン

東京都千代田区神田小川町3-24  
大栄堂第2ビル3F

tel 03-6280-6624  
fax 03-6280-6634

発行日  
デザイン協力  
構成・文

2017年8月  
舟越 一郎(funaco design studio)  
仲川美穂子



